神戸新聞 2016年12月11日 日曜日 面名 阪神 １４ 29ページ

生い茂る門松の名脇役

川西・若宮 クマザサ収穫最盛期

正月の門松や供え物などに使うクマザサの収穫と出荷が、川西市の若宮地区で最盛期を迎えている。生産者の一人大向善信さん(57)の山林（10アール）でも1日5千本近くを出荷。年の瀬恒例の作業に追われている。

クマザサは葉の縁が白くなる様子が、歌舞伎役者の隈取りに似ていることからその名が付いた。正月に仏壇や神棚などに供えられ、門松にも使われる。

日陰が多く、寒暖差の大きい環境が栽培に適しており、谷あいの同地区では江戸時代から栽培が続く。

現在6世帯が生産している同地区。大向さんの山林では、今月6日から収穫が始まった。斜面に生い茂る高さ50センチほどのクマザサを、葉の色づきや大きさなどを見分けながら1本ずつ丁寧に刈り取る。収穫したクマザサは大阪市鶴見区にある卸売市場に出荷している。

大向さんは「作業が慌ただしくなると年の瀬を感じる。高齢化などで生産者は減っているが、やはり正月は天然物のクマザサで迎えてほしい」と話した。（篠原拓真）

生い茂るクマザサをかき分けて収穫する生産者ら＝川西市若宮

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名 前【　　】

① 「クマザサ」の名は、どこからついたのですか？

② クマザサの栽培には、どのような環境が適していますか？

③ 記事を読んでどう思いましたか。感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学高学年～中学生／国語、総合、朝NIE